

聖峰会グループ（聖峰会・ひじり会）

地域ケアシステム

地域のために
地域とともに

地域医療支援病院／救急告示病院／労災指定病院／開放型病院
日本医療機能評価機構認定病院／更生医療指定（腎臓・心臓）病院

田主丸中央病院

病床数343床（一般病床178床／療養病床72床／精神病床93床）

聖峰会 マリン病院

一般病床70床／地域包括ケア病床15床

健康科学センター

サンヘルス聖峰

訪問看護

田主丸訪問看護ステーション

訪問リハビリ

訪問介護

ひまわりホームヘルパーステーション

介護老人保健施設
サンライフ聖峰

入所98床／ショートステイ2床

通所リハビリ

パワーデイケア 燦ひらわー
デイケアセンターひまわり

重度認知症デイケア さんぽ
精神科デイケア かれん

認知症対応型デイサービス

さくらデイサービス日田
さくらデイサービスうきは

居宅介護支援

ひまわりケアプランサービス
善導寺ケアプランサービスひまわり
さくらケアプランサービス日田

認知症対応型共同生活介護

グループホームひまわり館・
ひまわり2号館・ひまわり3号館

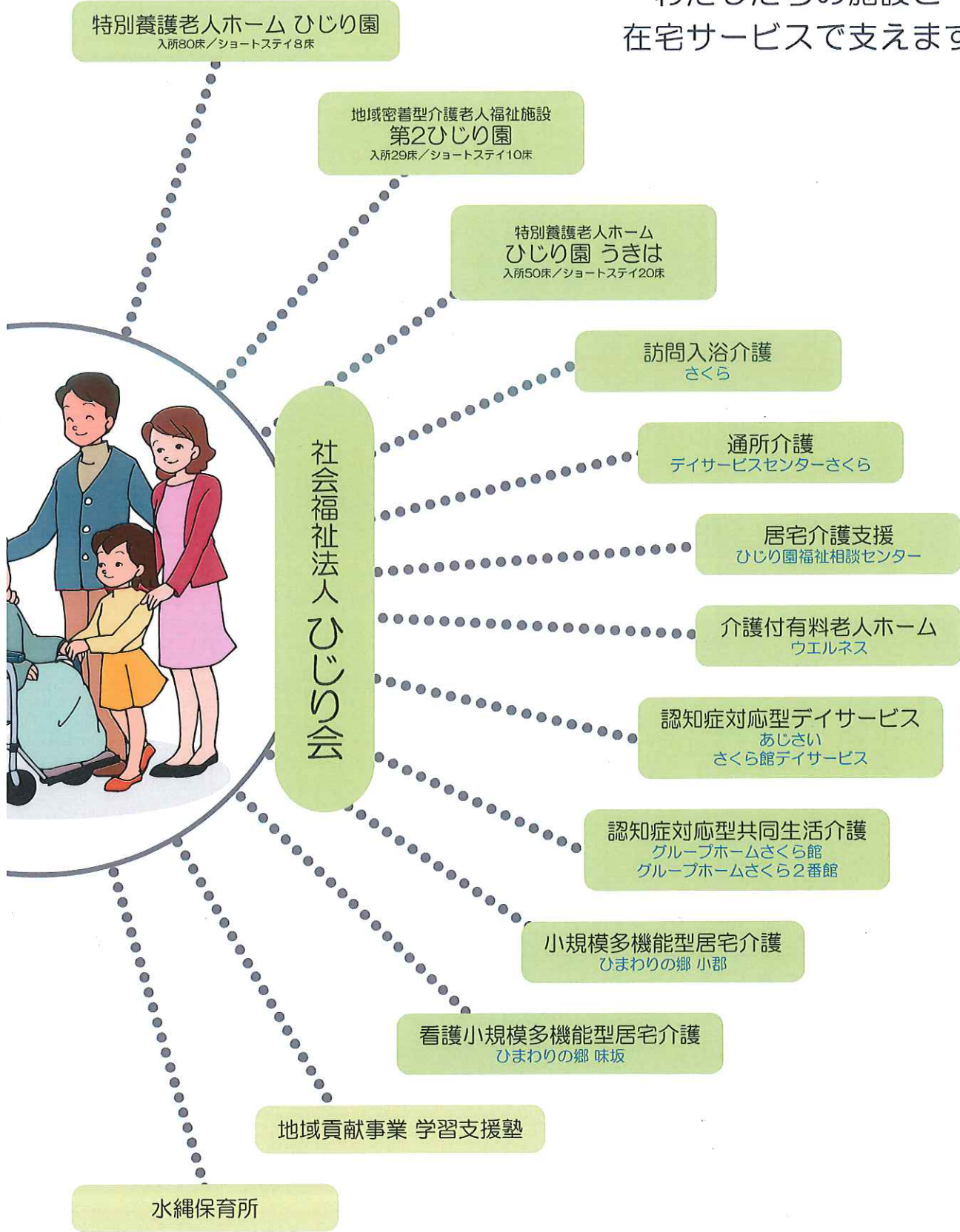
医療法人 聖峰会

小規模多機能型居宅介護

ひまわりの郷 吉井・田主丸・うきは
さくらの郷 日田



医療と福祉と保健のすべてを
わたしたちの施設と
在宅サービスで支えます





40周年記念座談会

令和2年4月27日 ひじり園の園長室にて、永年勤続の方々に
40年間を振り返っていただきました。



1期生

統括施設長

2期生

高倉 イヅミ × 鬼塚 香津子 × 中嶋 ケイ子

— 開園当時の思い出は？

施設長 あ頃はまだ、「親は家で、家族がお世話するもの」という時代でした。でも、病院を退院するお年寄りが家で暮らすのが難しい現状も多くて、そんなお年寄りが安心して暮らせる場所を作りたいと、理事長の思いから「特別養護老人ホームひじり園」をオープンしました。当初は「養老院」のイメージが強く入所されていた方も遠方の方が多かったですね。その頃の職員が「初めてひじり園に来た時、鉄筋で綺麗な建物だったからびっくりしました」と話していたことを覚えています。

中嶋 私は、新聞で求人を知り応募しました。採用試験が田主丸中央病院であり、受験者がかなり多くて驚き、「私は無理かな?」と思っていました。当時、履歴書も書いたことがなく、罫紙に職歴を書いて、写真は手持ちの果樹園で撮った写真を入れていました。面接の際、理事長先生より「この写真の後ろの木は柿?みかん?」と私の応募写真を見て笑いながら尋ねられ、おかげで緊張が和らいだのを覚えていますね。その後、事務所に「ちゃんとした履歴書に書き直して下さい。」と言われたのも思い出ですね。

施設長 私の履歴書の写真は、確か…石橋文化センターのバラ園で家族と撮ったスナップ写真だったわ。

高倉 就職したのは、30代だったから若かったですね。同期の職員は、ほとんど年上で、芸達者な方々ばかりでした。毎月の誕生会には、踊りや歌・お芝居等の演芸大会。衣装や小道具から揃っていて、ゲストの方もお元気な方が多くいらっしゃって一緒に賑わいましたね。夕方、仕事が終わってから演芸の練習があって大変でしたが、ゲストが演芸を楽しまれ、満面の笑顔を見せてくれるのがとても嬉しかったです。

— 開園40周年を振り返っていかがですか？

施設長 以前は、地域のボランティアの方々も園に沢山来られてましたね。クラブ活動も色々あって、書道・生け花・編み物・英語クラブ等の先生方もボランティアだったし、地域の民生委員さんや婦人会・青年団の方々も、夏祭りや敬老会、餅つき等々の行事の度に参加して下さいました。餅つきでは、ゲストも割烹着姿でお餅を丸めたり、私もおかげでお餅を千切るのが上手になりました。みんなで食べたお餅が美味しくて、大根おろしにお餅を絡めて食べる食べ方を、その時初めて知りましたね。

中嶋 お元気なゲストが本当に多かったですね。男性ゲストで、ベレー帽に色メガネのハイカラな男性ゲストがおられて、女性ゲストに大人気でした。ある日、「夜勤だから…」とすっぴんで業務をしていたら、その男性ゲストから、「女性は化粧をしとかな」と注意されてですね…それからは、夜勤の時もお化粧するように気をつけました。

高倉 ゲストと職員一緒に一泊で温泉旅行にも行きましたね。甘木、天ヶ瀬、日田とかに行っただけを覚えています。今思うと考えられないけど…。平成12年4月に介護保険制度が始まると、施設入所は要介護3以上が入所要件になり、当時と比べると、ゲストも重度化しましたね。ひじり会も色々な介護サービス事業が増えて、私はデイサービスさくらや訪問介護、訪問入浴サービスの事業に関わらせて頂きました。中嶋さんは特養一筋だけ？



中嶋 訪問入浴に行ったことあるよ。何回かだけど…

施設長 昭和55年にひじり園(定員50名)職員20名程からスタートして40周年の今年、ひじり園(定員80名)の他に16事業あり、職員数も350名になりましたけど、私が、筑後地区の老施協の会長をしていた頃、永年勤続の表彰をすることになった時、ひじり園に永年勤続に該当する職員が多数いて、又開園当時から職員も複数いたことに、他施設の施設長から「鬼塚先生すごいですね！そして、開園当初からの職員さんもあるなんて…羨ましいです。」と称賛の言葉を頂き、とても誇らしく思いましたね。



高倉 私は今、デイサービスさくらの勤務ですが、利用者の方の中に平成9年のデイサービスさくらがオープン当初から通い続けているゲストがおられますよ。その方のお元気な姿を見ると、今までの思い出が走馬灯のように浮かんで懐かしいです。

中嶋 私も就職したときは30代で、子供もまだ小学生でしたね。ひじり園の行事で、夏祭りみたいな夜の催しがある時は、朝出勤前に高倉さん宅に子供を預かってもらって、夜になるとひじり園に連れて来てもらい、子供も一緒にお祭りに参加していたし、職員旅行の時も家族同伴で参加する事ができ、職員の誰もが子供の世話をしてくれていて、みんな家族の様でした。私のひじり園での懐かしい思い出は、子供にとっても思い出になっています。

座談会の話は尽きず、1時間半にもなりましたが、最後に園長先生より大事にされている言葉を聞かせて頂きました。

「すべての人が、師であり友である」

物理学者で随筆家中谷宇吉郎氏の言葉

施設長 子供の頃に、母から良く聞いていた言葉で、今でも心に残っている言葉です。人様から、良い事も悪い事も色々な事が学べ教えて頂ける。そして、自分の歩く道を見極めることができる。

私は、一年前に大きな病気をしましたが、今は後遺症もなく日常生活を過ごせているのも、本当に皆様に助けられた命だと感謝しています。開園40周年を振り返り、これまで出会った方々に恵まれていたことを、本当に幸せに思うばかりです。





永年勤続職員アンケート

S56年～S60年に入職され、現役で頑張っている8名の職員さんにアンケートさせていただきました。

江口恭子 (S56.6.17 入職) 佐藤忠 (S58.4.1 入職)
上野信子 (S58.12.28 入職) 松竹正子 (S58.12.28 入職)
倉谷里子 (S60.4.1 入職) 西つるよ (S60.5.5 入職)
小江直美 (S60.6.1 入職) 西坂誓子 (S60.6.1 入職) 計8名



Q1 ひじり園に入職されたきっかけは何ですか？

江口：(昭和56年) 知り合いの紹介で、休職中の代替で、厨房で働き始めました。短期間のつもりでしたが、その後介護として正職となり、気が付けば39年たっていました。

佐藤：(昭和58年) 福祉系の大学を卒業し施設に就職したいと思っていました。縁あってひじり園に入職し、現在に至っています。

上野：(昭和58年) ひじり園が30床増床された時に、就職しました。

西：(昭和60年) 当時、子供が小さく、大家族の家計を助ける為に入職しました。

小江：(昭和60年) 知人が職員募集していることを教えてくれたので応募しました。

西坂：(昭和60年) 自分が持っている資格(栄養士)の職種が近所で募集されていたので、試験を受けました。

倉谷：(昭和60年) 短大を卒業し、母から「地元就職してほしい」と言われ、知人よりひじり園を紹介してもらいました。

Q2 昭和、平成、令和と時が過ぎましたが、思い出深い出来事は何ですか？

松竹：昭和、平成と仕事で挫折する事も色々ありましたが、夜勤をする中で夜明けと共に窓を開け、空気の入替えをしながらゲストの穏やかな表情での寝顔と起床の全館放送、特変なく業務が終えたとき、この仕事について良かったと思えました。令和の時代になり、定年を過ぎても園長先生のおかげで、働かせて頂き感謝しています。

西：昭和の時代は職員数も少なく措置制度でした。平成になり、介護保険制度が導入され施設希望のご家族が多くなったと思います。

小江：厨房に勤務していた時、台風が来て業務についた途端、停電になり、みんなで協力して朝ご飯80名分を階段で運んだことを覚えています。平成になってからは、介護保険が始まる時、中央病院の職員と二人一組になって在宅訪問し顧客確保活動したことを覚えています。

西坂：職員旅行で、先輩方の熱の入った演芸を今でも覚えています。デイサービスさくらに始まり、介護事業所の数が増えたこと。介護保険前にデイサービスで利用者の方から、利用料を当日500円頂いていたのも懐かしいです。

倉谷：私事ですが、平成2年に結婚し、結婚式の朝、白無垢姿でひじり園のゲストの方にお披露目したら、皆さまからお祝いの寄せ書きの色紙を頂いて本当に嬉しかったです。



Q3 福祉・介護に対する思いや考え方について、以前と変わりましたか？

江口：昭和の時代は、日々の生活を手助けする介護で良しとする時代でした。今では、ゲスト一人ひとりに対して個別ケアの充実から、ケアプランを作成し介護を提供する形になりましたが、私にとっては人生の先輩として真心で接する気持ちに変わりはありません。

佐藤：以前の老人ホームは養老院とか悪く言えば姥捨山的な偏見があり、世間の理解や協力も少なかったように思います。よく福祉は「心」と言われることがありますが、知識や技術があっても心がなければ何ら変化もないし、進歩がないものと確信しています。

上野：措置制度の時は、看護師をしていましたが、今は介護をしています。

小江：入職した当初は、何もわからなく見て覚える時代から、現在はマニュアル化され、指導の仕方も変わってきたように思います。

西坂：年を重ねた先の老が、遠い事だと思っていましたが、今ではすっかり身近な事となっています。

倉谷：若いころは、介護に対しての思い入れが少なかったのですが、両親が年を取り、介護が必要になった時、本当に社会に必要な仕事だと思い、事務職ばかりでしたが、自分のために介護の仕事に取り組み、今はひじり会に感謝しています。

Q4 座右の銘や、日頃心がけている事を教えてください。

江口：小学校の恩師の教で「裏表のない人間になりなさい」という言葉を今も守り続けています。心がけていることは、「相手の気持ちを思いやり、人の弱さや不完全さを受け入れる温かさを忘れない」ことです。

佐藤：「初志貫徹」入職したころの最初の気持ち（人を思いやる心）をいつも忘れないよう心がけています。

上野：「目配り、気配り、心配り」

松竹：「忍耐」人間一人ひとり、長所や短所を持っています。それを踏まえてチームワーク作りを心がけています。

西：「努力」日々を明るく、優しく利用者に接するように心がけています。

小江：「まずやってみてどうなのか？」というチャレンジ精神を大事にしています。

西坂：技術的な事や知識も大事ですが、気づき、気配りはそれ以上に欠かせない事だと思いながら日々を過ごしています。

倉谷：「後悔、先に立たず」行動しないで後悔したくないので。出来ないと思わずチャレンジしたいと思います。

ひじり会の 現在







EPA・留学生

EPA介護福祉士候補者とは、経済連携協定に基づいて日本の介護施設で就労・研修をしながら、日本の介護福祉士資格の取得を目指す方々のことを言います。

ひじり会では平成27年に初めてフィリピンより2名の候補生を迎え、以降令和2年6月現在、合計8名の候補生が働いています。

また、平成31年4月には中国から留学生を迎えました。

日本語と介護技術を学びながら、介護福祉士の資格取得と日本での永住を目指し、毎日頑張っています。



▲EPA介護福祉士候補生



▲中国人留学生



編集後記

令和2年7月7日をもちまして、社会福祉法人ひじり会は、開設40周年を迎えることができました。また、ここに無事、記念誌の発行ができましたことを、重ねて深く感謝申し上げます。

さて、思い起こせば、編集委員会を立ち上げた令和2年2月は、世界中で新型コロナウイルスが大流行し始めた頃でした。密を避けるために会議の開催ができない中、少人数での話し合いを重ね、デザインや企画、編集など、試行錯誤しながら作業を進めて参りました。

そもそも、本記念誌を発行するにあたり、これまでの紙媒体だけでなく、法人のホームページにも掲載して、多くの方々に見ていただけるようにとの提案がありました。初めての試みで、不安もありましたが、自分たちの手で作り上げていくという工程は、実にやり甲斐のある作業でした。

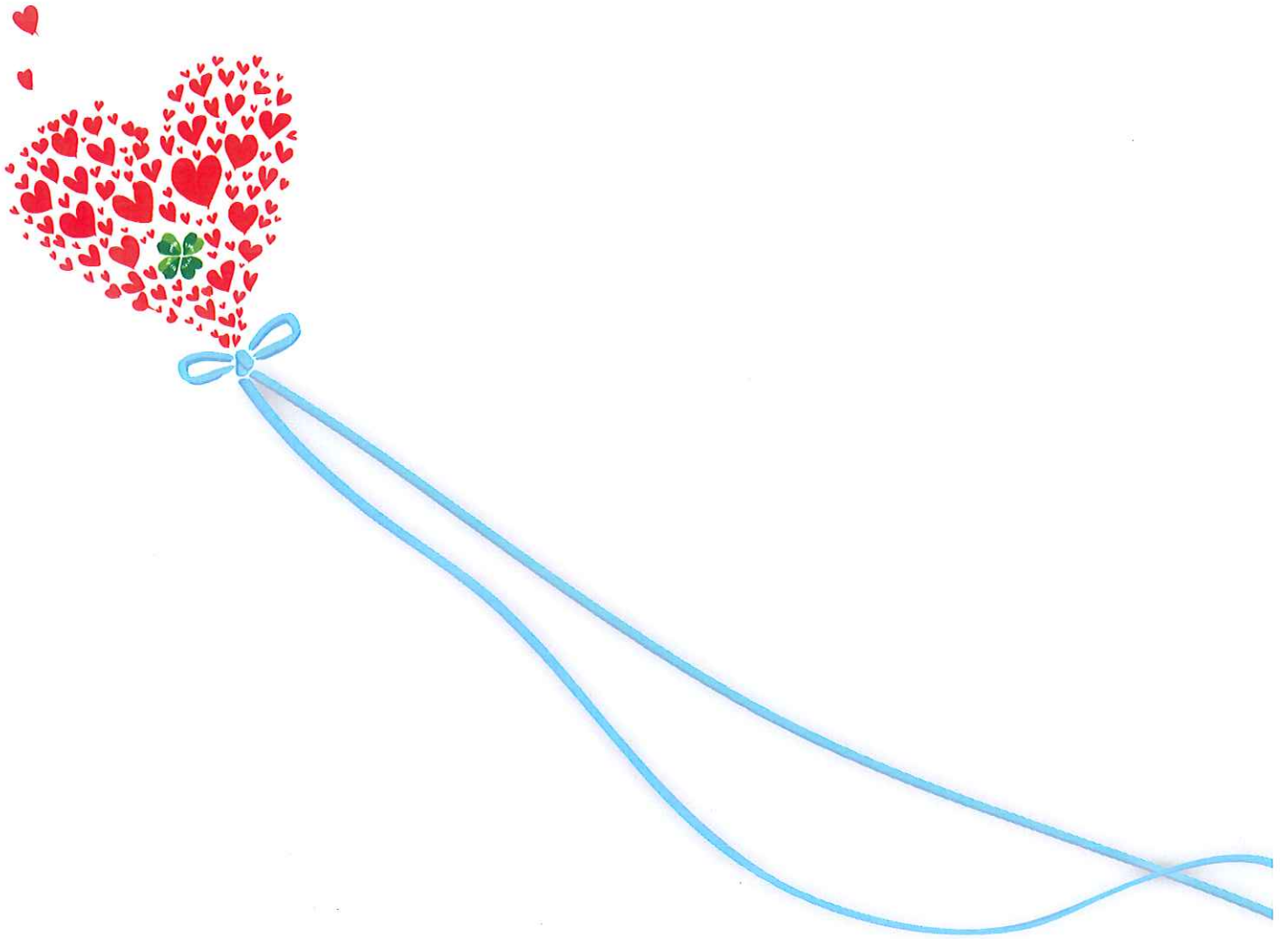
ところで、社会福祉法人ひじり会として、最初の記念誌は5周年のものですが、開設当時の苦労が伺える貴重な記念誌となっております。その後も、節目ごとに記念誌を発行しておりますが、時代を追うごとに事業所の数も増え、スタッフの数も増えていきました。ただ、どの記念誌にも共通して言えることは、いつの時代もゲストの皆さま、そしてスタッフの笑顔が溢れているということです。

開設40周年という歴史とは、ゲストの皆様の懸命に生きてこられた人生と、それを支援してきたスタッフの努力が重ねられた結果ではないかと思います。鬼塚統括施設長のもと40周年を迎えることが出来、改めてひじり会の職員で良かったと感謝しております。私たちは、先達が築いてこられた歴史をしっかりと引き継ぎ、「地域のために 地域とともに」の理念を胸に、地域の皆さまから愛され、信頼される法人であり続けたいと思っております。

そして、10年後の50周年に向けて、ひじり会の新たな歴史を刻む第一歩を、この記念誌から始められるよう切に願い、結びの言葉とさせていただきます。

令和2年8月吉日
編集委員一同





『創立40周年記念誌』

発行日 令和2年8月

発行者 社会福祉法人ひじり会
〒839-1212
福岡県久留米市田主丸町石垣 1291-6
(0943) 73-3050

印刷者 株式会社四ヶ所

